

News Letter

横浜ゴム株式会社 広報部

〒105-8685 東京都港区新橋5丁目36番11号
TEL. (03) 5400-4531

No.3

モータースポーツ活動、60年の軌跡

1957年、横浜ゴムは二輪レースである浅間火山レースにタイヤを提供、以来60年に渡りモータースポーツに関わってきた。1970年代までは国内が中心だったが、1980年代以降は欧州や米国などに活動の場を広げ、今日では世界各地のモータースポーツに競技用タイヤを供給している。またカテゴリーもフォーミュラ、GT、ツーリングカー、ラリー、ダートトライアル、カートなどと多様化し、世界有数の競技用タイヤメーカーの1社となっている。横浜ゴムのモータースポーツ活動の歴史をカテゴリー別に紹介する。

フォーミュラカーレース

タイヤや運転席に覆いのないシングルシーター（単座席）の専用マシンで競われるレース。国際自動車連盟（FIA）によるF1を頂点としたF2、F3などのカテゴリーがあるほか、米国のインディカー、日本のスーパーフォーミュラなど各国独自のカテゴリーがある。

【日本】

自ら「TEAM ADVAN」を編成して参戦

1974年から全日本FJ1300、1979年から全日本フォーミュラ・パシフィック選手権にタイヤ供給を行った実績を踏まえ、1980年からトップフォーミュラである全日本F2選手権にADVANレーシングタイヤの供給を開始した。しかしF2で横浜ゴムは最後発で実績がなく、ユーザーもいなかった。そこで自らマシン、ドライバーを編成し「TEAM ADVAN」として参戦。2年後の1982年のシリーズ第2戦で高橋健二の「ADVAN 東名マーチ（822/BMW）」が初優勝し、1984年には後にF1ドライバーとなったステファン・ヨハンソンがADVANマシンでシーズン3勝するなどした。一方1981年から参戦した全日本F3選手権では、1984年にシリーズチャンピオンに輝いた。1987年、全日本F2選手権は全日本F3000選手権に移行したが、引き続き高橋国光、和田孝夫、影山正美などをドライバーに迎えADVANマシンでの参戦を続け、同時に他チームへのタイヤ供給も増やしていった。同選手権は1996年、フォーミュラ・ニッポンに改称され、翌1997年から他社のワンメイクタイヤレースとなったため横浜ゴムは撤退した。しかしそれから20年後の2016年、横浜ゴムは全日本スーパーフォーミュラ選手権のワンメイクタイヤサプライヤーとなり、再びトップフォーミュラへのタイヤ供給を開始した。

【海外】

33年にわたりマカオF3グランプリにタイヤ供給

1982年から欧州F3選手権向けにタイヤ供給を開始。同年から1984年の3年間、ヨコハマタイヤ装着車がそれぞれ年3回、4回、4回の優勝を果

■フォーミュラカーレース（日本）



全日本F2選手権で初優勝した高橋健二の「ADVAN 東名マーチ（822/BMW）」（1982年）



全日本スーパーフォーミュラ選手権へのタイヤ供給をPRしたデモマシン（2016年）

■フォーミュラカーレース（海外）



33年連続してワンメイクタイヤサプライヤーを務めたマカオF3グランプリ（2014年）

たした。また米国のフォーミュラ・パシフィック（1988年）、スペイン F3 選手権（1998年）、ドイツ F3 選手権（2000年）、オーストラリア F3 選手権（2001年）などでワンメイクタイヤサプライヤーを務めた。中でも最も長期に渡ったのが、1983年から2015年まで33年間続いたマカオ F3 グランプリへのワンメイクタイヤ供給だった。同グランプリは世界各国で開催される F3 選手権のランキング上位者が集う、F3 世界一決定戦として位置づけられる大会で、優勝者には後に F1 レーサーとして活躍したアイルトン・セナ、ミハエル・シューマッハなどが顔を並べている。

グループ C/GT レース

グループ C は、レース専用開発された純レーシングカーで競われるレース。世界の大手カーメーカーの間で競われたが、同カテゴリーは1990年代前半までに終了。一方 GT レースは、市販車をベースとした改造車両によって競われるレースで、日本では1993年から全日本 GT 選手権レースとして始まり、2005年から SUPER GT として開催されるようになった。

【日本】

全日本耐久選手権から SUPER GT まで連続参戦

グループ C では、1983年、日本で開催された世界耐久選手権に専用タイヤを供給。同年全日本耐久選手権がスタート。翌1984年から ADVAN レーシングタイヤの供給を開始し、1985年、1986年に高橋国光/高橋健二組の「ADVAN ALPHA 962」がシリーズチャンピオンとなった。同選手権が全日本スポーツプロトタイプカー耐久選手権に改称された1987年、さらに1989年も高橋国光らがドライブする ADVAN マシンがシリーズチャンピオンを獲得した。一方 GT レースは、1993年に全日本 GT 選手権レース（1994年に全日本 GT 選手権に改称）が始まった年から ADVAN レーシングタイヤの供給を開始、1995年、GT1 クラス（1996年に GT500 に改称）で TEAM TAISAN が2チーム合計で3勝しチームチャンピオンとなった。また GT2 クラス（1996年に GT300 に改称）では1995年から2001年まで ADVAN 装着車が7連覇を果たした。2005年、全日本 GT 選手権が SUPER GT へと改称されて以降、GT500 では「TEAM ADVAN 土屋」、「KONDO Racing」などが優勝、GT300 では2006年、2009年から2012年、2014年、2016年にシリーズチャンピオンを獲得した。

【海外】

ル・マン 24 時間レースなど世界の耐久レースで活躍

1984年、米国の IMSA キャメル GT チャンピオンシップにタイヤ供給を開始し、同年ヨコハマタイヤ装着の「マツダ RX-7」が GTO クラスで優勝した。IMSA エクソン・サプリーム・シリーズでは1990年、1991年に GTU クラス、1992年、1994年には「ニッサン 300ZX」が GTS クラスで優勝した。「ニッサン 300ZX」は1994年シーズン初戦のデイトナ 24 時間レースでも総合優勝を果たした。また1998年にはヨコハマタイヤ装着の「モモ/フェラーリ 333SP」が米国 2 大耐久レースといわれるデイ

■グループ C/GT レース（日本）



高橋国光などによりグループ C で4度のチャンピオンを獲得した「ADVAN ALPHA 962」（1989年）



全日本 GT 選手権 GT500 クラスでシリーズ2位となった「デンソーサード スーブラ GT」（1997年）



全日本 GT 選手権 GT300 クラスでシリーズチャンピオンとなった「シェル・タイサン ADVAN GT3R」（2000年）



SUPER GT GT300 クラスでシリーズチャンピオンとなった「グッドスマイル 初音ミク Z4」（2014年）

■グループ C/GT レース（海外）



米国のデイトナ 24 時間で総合優勝した「ニッサン 300ZX」（1994年）

トナ 24 時間レース、セブリング 12 時間レースをとともに制した。フランス開催のル・マン 24 時間レースでは 1984 年にタイヤ供給を開始。同年、初挑戦ながらヨコハマタイヤ装着車は総合 3 位となった。その後、1995 年、2000 年、2001 年にクラス優勝、2005 年に LM-GT2 クラスで優勝した。ドイツ開催の VLN ニュルブルクリンク耐久シリーズでは 2011 年にヨコハマタイヤ装着車がシリーズチャンピオンを獲得した。この他、2005 年から米国開催のポルシェ GT3 カップ、2009 年からブラジル開催のポルシェ GT3 カップ、2012 年ドイツ開催の ADAC GT マスターズ、2016 年からマレーシア開催のセパン 12 時間耐久レースにワンメイクタイヤを供給した。

ツーリングカーレース

ツーリングカー（市販車）を一部改造した車両によって競われるレース。日本では 1971 年から富士グランチャンピオンシリーズと併催でマイナーツーリングカーレースが行われ、1985 年から全日本ツーリングカー選手権、1991 年から N1 耐久（スーパー耐久）シリーズなどが開催されてきた。世界ツーリングカー選手権（WTCC）をはじめ世界各地でも活発に開催されている。

【日本】

サーキットに ADVAN カラー登場

1963 年、鈴鹿サーキットで日本初の本格的自動車レースである第 1 回日本グランプリ自動車レースが開催された。1965 年には富士スピードウェイも完成し、1971 年から富士グランチャンピオンシリーズがスタートするなどして日本でもモータースポーツ人気が高まってきた。横浜ゴムは第 1 回日本グランプリ出走車に一般公道用タイヤを提供、以来レース専用タイヤの開発に取り組み、1976 年から富士グランチャンピオンシリーズのマイナーツーリングレースに G.T. SPECIAL の供給を開始した。さらに 1979 年から ADVAN を投入、赤黒の ADVAN 装着車が初めてサーキットに登場した。ADVAN 装着車は同年のシリーズチャンピオンを獲得、その後 1982 年、1988 年、1989 年にもシリーズチャンピオンとなった。1985 年からスタートした全日本ツーリングカー選手権にも ADVAN を供給、同年シリーズチャンピオンを獲得した。1991 年にスタートした N1 耐久シリーズ（1998 年からスーパー耐久シリーズに改称）でも、2003 年、2008 年に全クラスでチャンピオンとなり、2010 年から同シリーズは横浜ゴムのワンメイクタイヤレースとなった。

【海外】

世界ツーリングカー選手権に 12 年連続タイヤ供給

1987 年、世界ツーリングカー選手権（WTC）にタイヤを供給し「シュニッツァー BMW M3」がシリーズ優勝、同マシンは翌 1988 年の欧州ツーリングカー選手権でもシリーズ優勝を遂げた。欧州で人気のある耐久レースにも参戦し、ドイツのニュルブルクリンク 24 時間耐久レースで 1989 年、1991 年、1993 年、またベルギーのスパ・フランコルシャン 24 時間耐久レースで 1988 年、1990 年、1992 年にヨコハマタイヤ装着車が優勝



米国のデイトナ 24 時間とセブリング 12 時間を制した「モモ／フェラーリ 333SP」（1998 年）



フランスのル・マン 24 時間でクラス優勝を果たした「ホンダ NSX」（1995 年）

■ツーリングカーレース（日本）



富士グランチャンピオンシリーズに併催されたマイナーツーリングカーレースで活躍した「G.T. SPECIAL サニー」



マイナーツーリングカーレースで活躍した ADVAN カラーの「ADVAN つちや サニー」（1980 年）



2010 年からワンメイクタイヤ供給を行っているスーパー耐久シリーズ（2015 年）

した。このほか、英国とイタリアのツーリングカー選手権で、1990年から1992年にかけてヨコハマタイヤ装着車がシリーズ優勝。また1995年にオーストラリア、1998年に南アフリカ、2007年にポルトガル、2008年にロシアとスカンジナビア、2010年に中国のツーリングカー選手権でワンメイクタイヤサプライヤーを務めた。ツーリングカーレースへの数々のタイヤ供給の実績が評価され、2006年からスタートした世界ツーリングカー選手権（WTCC）へのワンメイクタイヤ供給が決まった。WTCCへのタイヤ供給は2017年も続けており、12年目のオフィシャルタイヤサプライヤーを務めている。

ラリー

市販車を一部改造した車両を使い、山岳、砂地、泥ねいと変化に富んだ一般路や原野で走破タイムを競う。日本では1960年代から競技が始まり、現在では1979年にスタートした全日本ラリー選手権を頂点に様々なローカル競技が開催されている。世界的には各国を転戦する世界ラリー選手権が有名。

【日本】

全日本ラリー選手権で圧倒的強さ

1979年からスタートした全日本ラリー選手権で、山内伸弥がADVANを装着する「三菱ミラージュ」でBクラス優勝。その後、山内はADVAN装着車で1981年、1983年、1984年、1992年にCクラスチャンピオンを獲得した。1993年、ADVAN装着車で奴田原文雄がBクラス優勝。奴田原は1994年から「ADVAN PIAA ランサー」で参戦し、9回のクラスチャンピオンと3回の総合優勝を遂げた。

【海外】

1970年代から海外挑戦を開始

日本カーメーカーの海外ラリー参戦を契機として本格的にサポートを開始。1972年から1976年にかけてオーストラリアで開催されたサザンクロスラリーで、G.T. SPECIAL RALLY MASTER-2を装着した「三菱ランサー」が5年連続して優勝した。また世界ラリー選手権（WRC）の一戦としてケニアで開かれたサファリラリーでも、1975年から1977年にかけて「三菱ランサー」が3年連続クラス優勝を果たした。1988年、アジア・オセアニア地域を舞台としてスタートしたアジア・パシフィックラリー選手権では、ヨコハマタイヤ装着の「三菱ギャラン VR-4」が初代チャンピオンを獲得、その後1990年、1991年、2014年にもヨコハマタイヤ装着車がシリーズ優勝した。2006年、プロダクションカー世界ラリー選手権（PWRC）の第1戦、第5戦、第6戦でADVANを装着した「ADVAN PIAA ランサー」が優勝した。1995年からメキシコの砂漠地帯を舞台に戦われる Tecate SCORE Baja 1000にSUV用タイヤGEOLANDAR装着車で参戦を開始。4度のクラス上位入賞を経て、2002年（Baja 2000として開催）にクラス優勝を遂げた。

■ツーリングカーレース（海外）



2006年から2017年まで12年連続してワンメイクタイヤを供給している世界ツーリングカー選手権（2015年）

■ラリー（日本）



全日本ラリー選手権に参戦した「ADVAN PIAA ランサー」（1994年）

■ラリー（海外）



プロダクションカー世界ラリー選手権第1戦のフランス・モンテカルロラリーで優勝した「ADVAN PIAA ランサー」（2006年）



Tecate SCORE Baja 2000でクラス優勝したGEOLANDAR装着の「三菱チャレンジャー」（2002年）

ダートトライアル / ジムカーナ / レーシングカート

ダートトライアルは、市販車を改造した車両でダート路面のサーキットを使いタイムを競う。ジムカーナは一般の乗用車を使用し、舗装道路をスラローム走行してタイムを競う。レーシングカートは、鉄パイプで組んだフレームにエンジン、タイヤを取り付けたシンプルなマシンで競う競技。入門者がレース感覚を養うのに最適といわれる。

【日本】

全日本選手権を中心に幅広くサポート

ダートトライアルは1977年からタイヤ供給を開始。全日本ダートトライアル選手権で田島伸博がヨコハマタイヤ装着車でDクラス11連覇した。ジムカーナ用タイヤの供給は1991年から開始。全日本ジムカーナ選手権で、山本真宏がヨコハマタイヤ装着車でシリーズチャンピオンを11度獲得した。レーシングカート用タイヤの供給は2000年からで、全日本カート選手権からジュニアカート選手権まで幅広いレースをサポートしている。

二輪レース

四輪レースより古い歴史を持ち、日本では1962年から、サーキットを使用した全日本ロードレース選手権が開催されている。非舗装路を使ったモトクロス競技も開催されている。

【日本】

全日本ロードレース選手権で「TEAM GETTAR」が活躍

1957年、浅間火山レースに二輪用一般タイヤを供給。1959年にはモトクロス用タイヤ、1966年にはロードレース用タイヤを開発した。1977年には世界ロードレース選手権参戦マシン用に日本初のロードレース用スリックタイヤを開発。さらに1984年、日本初のロードレース用ラジアルスリックタイヤGETTAR 600シリーズの発売を契機に、全日本ロードレース選手権に「TEAM GETTAR」として参戦した。1989年、1990年にそれぞれ国際A級125ccなどでシリーズチャンピオンとなったが、1995年、横浜ゴムが二輪タイヤ事業から撤退したのを契機にレース活動を中止した。

サイドカーレース

レース専用の三輪で競われるサーキット競技。日本では馴染みが薄いですが、欧州では人気モータースポーツのひとつになっている。

【海外】

1980年代に3連覇、1990年代に5連覇を達成

1981年から欧州で開催されている世界サイドカー選手権にタイヤ供給を開始。ヨコハマタイヤ装着車が1984年から1986年まで3連覇、1992年から1996年まで5連覇を果たした。

*次号では、ポルシェから始まった欧州カーメーカーへの新車装着についてご紹介する予定です。

■レーシングカート（日本）



全日本カート選手権に参戦した
ADVAN装着車（2015年）

■サイドカーレース（海外）



世界サイドカー選手権の模様（1984年）